

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400485
法人名	ハッピーナカオ株式会社
事業所名	グループホーム はなみずき
所在地 (電話番号)	福岡県太宰府市水城6-15-28 (電話)092-918-8766
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年2月4日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 11人, 非常勤 9人, 常勤換算 16人

(2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	鉄骨造	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 80 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小西第一病院、セントラル歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大宰府市街が一望に見渡せ、広い敷地内は地域に開放された菜園や花壇があり、地域の方と利用者と一緒に野菜摘み等、収穫の楽しみを味わう場を設けている。ホーム名の「はなみずき」は花言葉の「返礼」に由来してつけられており、地域へ福祉を通してお返ししたいという運営者の思いがこめられている。職員もその理念の実践に向けて日々取り組んでおり、利用者が普段どおりの生活が営めるよう、家庭的な温かい介護を実践している。今後、さらに地域の方が気軽に寄ってもらえるホームを目指す意欲が伺え、ますます期待ができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善項目については職員全員で検討、話し合いを行い、一部改善されていない点があるが、個人情報の取り扱いはすぐに具体的な改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員の意見を聞いて作り上げた。日頃のケアを振り返って、気付きの再確認や介護の統一等サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長、家族、民生委員、市職員(地域包括職員と交代参加)が参加し、2ヶ月に1回開催している。外部評価の結果や利用者の状況報告、事故報告、行事案内をしており、地域からも情報を得ている。そこでの意見や助言はサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>苦情箱を設置しており、外部の苦情相談窓口やホーム内の窓口は書面にて明確に家族に説明している。毎月送付しているホーム便りに家族の意見や要望を記入する欄を設け、苦情箱に入れることもできるよう工夫されている。また、年2回家族会を開催し、家族主導で進めてもらい、そこで出た意見は運営に反映するよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、リサイクル運動に参加している。また地域の中学校の職場体験実習の受け入れを行っており、事前に中学校に出向き事前学習の機会を作るなど交流を図っている。地域に開放された菜園や花壇があり、収穫は地域の方と利用者と一緒に、野菜摘み等収穫の楽しみを味わう場を設けている。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『普段の生活に近い状態で暮らして頂けるようお手伝い致します』『生きている実感の持てる暮らしを支援致します』『入居者の体力・知力に合わせたお手伝いを致します』『地域社会と強調した施設として運営して行きます』という地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は玄関や事務室の目に付きやすい場所に掲示して職員は毎朝唱和している。会議の中で理念の確認を行い、日々の介護や介護計画に活かしているよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、リサイクル運動に参加している。また地域の中学校の職場体験実習の受け入れを行っており、事前に中学校に出向き事前学習の機会を作るなど交流を図っている。ホームの畑も地域に開放して地域の方が気軽に立ち寄れる関係作りを目指して取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題には全職員で話し合いを行い、具体的な改善に取り組んだ。今回の自己評価は全職員に意見を聞いて、介護支援専門員と管理者で作り上げた。日頃のケアを振り返って気付きの再確認や介護の統一等サービスの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、家族、民生委員、市職員(地域包括職員と交代参加)が参加し、2ヶ月に1回開催している。外部評価の結果や利用者の状況報告、事故報告、行事案内をしており、地域からも情報を得ている。そこでの意見や助言はサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回ホーム便りを手渡しており、また運営推進会議で顔なじみの関係を築けているので、介護保険のわからないこと等相談しやすい。また、空床情報を伝え連携を保つよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用した事例はないが、入居契約時に権利擁護事業のパンフレットを一緒に家族に手渡し説明を行っている。また職員は毎日朝礼時に11項目あるマニュアルの読み合わせを行っており、その中で理解を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身の状態変化があった場合、その都度家族に電話報告を行っている。月1回発行するホーム便りに利用者の写真入りで暮らしぶりや金銭管理についての報告を行っている。職員の異動や定期受診の結果に関しては面会時に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月送付しているホーム便りに家族の意見や要望を記入する欄を設け、苦情箱に入れることもできるよう工夫している。また、年2回家族会を開催し、家族主導で進めてもらい、そこで出た意見は運営に反映するよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を少なくするための職員指導に力を注ぎ、小さな子供がいる職員等の働きやすい職場作りに取り組んでいる。やむを得ず離職者が出た場合、引継ぎ期間を1ヶ月設け、利用者のダメージを最小限にできるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から外すようなことはない。資格取得や余暇活動のための休日取得への配慮があり、職員の社会参加や自己実現の権利が保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修を兼ねて、認知症についての研修を2ヶ月に1回行っている。また、日々の介護の中で気付いたことは、その都度職員に助言や指導を行うなどして、啓発に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は介護主任やベテラン職員と共に、日勤業務から始めて2ヶ月目よりその力量や経験から判断して夜勤業務を行うようしている。外部研修も勤務扱いで参加が出来、研修内容を伝達講習している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や、地域の老人保健施設と合同で花見を行う等交流の機会があり、他ホームのアイデアを参考に書式の改善を行ったりした。また「FUKUOKA医療・介護ネットワーク」の勉強会に定期的に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や入院先に職員が出向き、説明を行い利用者の情報を得て来所時にホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。また見学や希望があれば体験利用も可能であり、家族にも面会を増やしてもらうなどして、協力を仰ぎながら徐々に馴染めるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性職員が台所に立つと、利用者が声をかけてくれて、野菜の切り方や味噌の量など教えてもらい労いの言葉をいただくことがある。日々の暮らしの中で人生の先輩として学ぶことも多く、共に支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は本人・家族から生活歴や趣味等を伺っている。また日々の関りの中で希望や意向の把握に努め、意思疎通が困難な利用者には表情や行動から意向の把握に努めている。また家族の面会時にも情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の日々の関わりの中で思いや意見を聞きとり介護計画に反映させている。また、医師からの助言や関係者の意見もとにして、職員全員で話し合い介護計画書を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員が事前に「検討用紙」に問題点や改善点を記入し、それを基にした話し合いの中で必要があれば介護計画の見直しを行っている。利用者の状態変化や家族から要望があった時は、主治医や家族及びその他の関係者とその都度話し合いを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院の際は、見舞いや洗濯物の受け取りを行っている。協力病院の受診対応や他科受診、緊急時の受診対応等行なっている。家族宿泊の場合や家族への食事提供もその都度柔軟に対応している。車いす・電動ベッドの貸出も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がおり、職員が受診同行を行っている。本人家族が希望するかかりつけ医への受診の場合は、基本的には家族対応であるが不可能な時は職員が代わって行っている。また、経過報告は電話で行ったり、状態変化がない時は面会時や毎月の便りでお知らせをしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りが可能なことを、入居時に本人家族へ口頭で説明をしている。要望があれば受け入れるようにしているが、看取りの指針やマニュアルの整備がされておらず、職員の理解を深めるための勉強会等も行われていない。	○	看取りをいつでも不安なく受け入れることが出来るよう、指針やマニュアルの整備、及び勉強会等を開いての職員の理解の向上への取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者尊厳保持のため職員は言葉掛けに気を付けており、特にトイレ誘導時の声かけには注意を払っている。個人情報、通常は人目に触れないよう書棚に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のおおまかな流れはあるが、職員の都合を優先した生活ペースとはなっていない。常に本人の気持ちを尊重し、散歩、買い物、草むしり、畑仕事、歌をうたう、おしゃべり等一人ひとりのペースを大切に柔軟な対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間の食事メニューはあるが、近隣から野菜をもらったり、菜園で野菜の収穫があったりしたら、臨機応変に食事メニューを変えることもある。また、利用者の能力に応じて、野菜の皮むきや味見、食器拭きなど手伝ってもらっている。そのため、台所は利用者が入りやすいようになり、流しには手すりも設置されている。食事は職員と一緒に会話を楽しみながら、和気あいあいとした雰囲気である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は1階が月・水・金で、2階が火・木・土で行われている。利用者に入浴拒否があれば、時間をずらして声かけしたり、次の日に入浴してもらったりして対応している。菖蒲や夏みかんの皮を入れたり、音楽を流したりして、気持ちよく入浴を楽しめる支援を行っている。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、畑仕事、縫い物、手芸、旅行が好きな人にはお芝居見物、花見、外食等、一人ひとりの得意分野や趣味を通じて、楽しみごとを作り出して支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季折々に花見に行ったりして、外出の機会を多く取るよう心がけている。希望があれば、レストランで食事をしたり、スーパーと一緒に買い物に行く等して、一人ひとりの希望に添うようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前施錠をしなかった為、利用者が外に出られたことがある。そのため家族からの要望もあり玄関は内側からロックがされている。	○	職員の見守りの方法を工夫したり、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチする等して、日中玄関に施錠しない取り組みに期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署による昼間を想定しての訓練が行なわれているが、夜間を想定した避難訓練は行なわれていない。	○	災害はいつ、どの時間帯で起こるかわからないので、一人ひとりの利用者の状態を踏まえて、昼間だけでなく夜間も想定した避難訓練の実施が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合った食事形態や食量となっている。朝が遅い人にはその人の食事時間に合わせて、遅く提供したりしている。水分量は一日1500CC摂取を目安として、一人ひとり詳細に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには木漏れ日がさし込み、利用者職員がそれぞれ好きな場所で一緒に語らったり、唄ったり、思いの場所で居心地よく過ごせる工夫がされている。台所には利用者が入れて仕事がしやすいように、流しに手すりが設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にベッドやクローゼットの備え付けはあるが、自宅から使い慣れたベッドや家具の持込みも自由である。家族の写真やお気に入りのぬいぐるみが置かれており、本人が心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		